協働のまちづくり説明会記録（山王地区）

≪開　会≫

≪説明者等紹介・日程説明≫

≪市民活動推進課説明≫
①地域ですすめるまちづくりについて
（協働のまちづくりについて、自主運営組織のあり方について）

≪①対しての質疑応答≫

・今も各組織の下に部会を設けて活動しているが、その他にも組織を設けるという考え方なのか。社教、町内会のメンバーは、個人が出てきて組織を作っているものなので、その辺りの考えも聞きたい。現在、教育委員会でも新しい公共型の学校づくりに取り組んでいるが、組織ばかりが出来るのは果たして良いことなのか。

今ある組織を拡充するという考えで、全く新しい組織をつくるということではない。一番大切なことは、それぞれの団体が集まって話をする場を設けたり、協力連携するための話し合いの場づくりであると考えている。教育委員会の取り組みについては、教育という分野に特化しているが、今回提案している協働のまちづくりは全分野にわたる取り組みを想定している。重なる部分もあるが、新しい公共型の学校づくりは中学校区での取り組みであり、協働のまちづくりは地域活動の現状を踏まえ地区連合町内会や地区社教の活動区域から始めることを想定しており、取り組む範囲が違っている。

・高山は観光業の比重が大きいが、そのような事業者や組合、組織、団体へ市としての働きかけはしているか。

事業者等への働きかけは必要だと思っているが、順序としては基礎になる町内会や地域から話をすすめて、少しずつ説明の範囲を広げて議論していきたい。

・中心市街地は観光業に携わっている地域や町内が多く、関係している団体や事業者にも話をしていくと実行性があるのではないか。

今後、アプローチの仕方を検討する。

・高山市としての財政的な事を考えるなら観光の事も考えていかないといけないのではないか。その問題を考えていかないと、いつまでも住み続けたい所にはならない。他の自治体では、保育園や幼稚園の年齢から、おもてなしの心を学んでいく取り組みをしている。高山市民は自分さえ良ければよいという考え方をもっているように見える。

もう少し幼児教育から考えていかなければいけない。町内会の活動も全員が参加してくれるわけでもなく決まった人だけでやっている。

・今の高山は、まとまりがない。まとまることのできる土台づくり（今の組織の見直し、縮小できるものは縮小して凝縮）をしていかないと新しいものを作っても同じになる。頭が大きくなると、まとまりがなくなり、末端まで情報がいかないという事が出てくる。

・高山の問題点を考えていかないといけない。高山の町を歩いてみて町が綺麗なのは地域のお年寄りなどが綺麗にしてくれているから、市は地域をもっとみて考えてほしい。高山のやることは一発屋だと思う。「こだま～れ」についても知っている人がほとんどいない。今、主役は市民と言われても胸に響かない。お金の使い方についても、「こだま～れ」では東京からくる有名な方にお金を使っていたが、そうではなく、地域の人にお金を使ってほしい。地域から盛り上がらないと何も変わらない。

≪企画課説明≫

②行政ですすめるまちづくりについて

（市民参加条例（仮称）の制定に向けて）

≪②に対しての質疑応答≫

・質疑なし

≪説明全体に対しての質疑応答・意見交換≫

・質疑、意見なし

≪閉　会≫